農業共済新聞

安心のネットワーク NOSAI
公益社団法人
全国農業共済協会
〒102-8411
東京都千代田区一番町19番地
購読☎03・3263・6413
編集☎03・3263・6727
月4回・水曜日発行
©全国農業共済協会2017
http://www.nosai.or.jp/

## 農業共済と収入保険で安全網を充実

# 改正農災法が成立

改正農災法は与党などの賛成多数で可決、成立した（16日夕刻、参院本会議）

## 「農業保険法」として〝備え〟強固に

## 経営安定へ　加入促進に全力

改正農業災害補償法は16日、参院本会議で与党などの賛成多数で可決、成立した。農家の負担軽減などの観点から農業共済事業を見直すとともに、価格低下などを含めた収入減少を補てんする「農業経営収入保険事業」（収入保険）を創設。両事業による農業保険制度の確立を通じて農業経営の安全網を強化する。施行日は2018年4月1日で、農林水産省は19年産からの収入保険導入へ詳細な制度設計を急ぐ方針。両事業を担う農業共済団体は、〝備えあれば憂いなし〟の農業生産体制の強化に向け、制度内容などに関する農家への丁寧な説明を基本に、農業共済または収入保険への加入推進に全力を挙げる。

【関連記事2面】

改正法は、農業共済と収入保険を行う「農業保険の制度を確立し、もって農業の健全な発展に資すること」を目的とする。法律名は「農業保険法」に改める。

収入保険は、青色申告を行う農業者（個人・法人）を対象とし、①保険期間中の農業収入金額が、基準収入に農業者が選択する割合を乗じた額を下回った場合に、下回った額の一定割合を支払う②保険方式（掛け捨て）に、積立方式を組み合わせることができる③保険料率は危険段階別に設定する――などを規定した。国が保険料の2分の1と、積立方式による補てんの4分の3を負担する旨を明記し、農家が安心して加入できるよう政府の再保険を措置し、大災害などでも確実に保険金等が支払われる仕組みも担保した。

なお、基準収入は直近5年間の収入を基本に設定するが、具体的な算定方法などは農林水産省が省令で規定する。農業者の選択割合・補てん割合（ともに9割を上限）や保険料率（現時点では農家負担1％で試算）、具体的な対象収入なども今後、正式に決定する。

### 新たに全国連設立

実施主体は、農業共済団体が新たに設立する全国農業共済組合連合会（全国連）が担う。全国連は、保険金支払いまでのつなぎ融資の業務も担い、農業共済組合や市町村などに事務委託できる規定も整備した。

収入保険の加入受付は18年秋に開始する予定で、農業共済団体は18年4月の全国連設立に向けた準備を加速させる。国や関係団体とも連携し、青色申告の普及拡大に努めるとともに、収入保険は、農業共済と収入減少影響緩和対策（ナラシ）や、野菜価格安定制度など類似制度と選択加入となることから、農家への分かりやすい制度説明に必要なタブレット端末機材などの整備も進める方針だ。

農業共済は、収入保険の導入と合わせて19年産から農作物共済の任意加入制への移行が決まった。共済金の支払いがない場合などに掛金の一部を払い戻すことができる無事戻しは、新たに義務化する「危険段階別共済掛金率」（共済事故の発生状況など危険の程度に応じて掛金率を設定する仕組み）の定着を急頭に21年度までで廃止する。家畜共済における死亡廃用共済と疾病傷害共済の分離なども規定した。

また、収穫共済の一筆方式は今後、省令で21年産までで原則廃止とするが、農作物共済は一筆方式の加入者が多いことから、従来の「一筆全損特例」に加え、50％以上の減収が見込まれる圃場については坪刈りなどを行わずに50％の減収として共済金を支払う「一筆半損特例」など、より安い事務負担・掛金で損害を補償する仕組みを導入する。

国会審議では、任意加入制への移行や一筆方式の廃止に伴い、被害の少ない地域などで無保険者が発生するとの懸念が挙がった。また、収入保険の安定には加入者の確保が必要との指摘が相次いだ。衆院農林水産委員会は原案を一部修正し、農業保険の加入促進に向け、国は農業者が適切に制度を選択できる情報提供などに努める規定などを追加。さらに衆参の農林水産委員会では、無保険者が出ないよう制度内容を十分に説明し、農業共済への継続加入または収入保険への加入を進めるなどとした附帯決議を採択した。

なお、農林水産省は、農業共済への加入促進に向け、危険段階別共済掛金率や一筆半損特例の導入とともに、集団単位で簡易に加入できる方式の改善や毎年の加入手続きを省略できる自動継続特約なども措置する考え。農家の経営発展を目的とした融資・事業の採択の際には、農業共済または収入保険への加入促進に努める方針も示している。

## ズバリ直言

市田 知子

### アスパラガスの日々

前回、「ドイツ飯」に対して失礼なことを書いてしまったので、今回は季節の食べ物を紹介しよう。春の食卓を飾るのは何といってもアスパラガスである。ドイツ語ではシュパーゲルという。白くて太いアスパラガスを、塩と砂糖を少々加えたお湯で茹で、市販のソースをかけて食べるのが定番だ。その昔、ギリシャやローマの時代にも食べられていたらしいが、いつごろからか、苗を砂地の中に埋め、シートをかけて日に当たらないようにして育てるようになった。

アスパラガス畑はドイツ全体で2万4千㌶ほど、多くは北部にあり、ここニーダーザクセン州も主産地の一つである。5月下旬、研究所の見学ツアーで訪ねた農場には65㌶もの畑があり作業場ではポーランド人の若い女性が洗浄や仕分けをしていた。

アスパラガスには利尿作用があり、またカロリーがほとんどないため、ダイエットによいといわれる。そのためか、ドイツ人は春になるとみな一生懸命アスパラガスを食べる。もっとも、脂肪たっぷりのソースをかけるので効果は疑わしい。見学と昼食のあと、アスパラガスに関するクイズ大会があった。わがチーム（私ほか3人）は「アスパラガスの実は赤色である」には○をして正解だったが、「アスパラガスには媚薬的効果がある」をテレビ番組の受け売りで○にしたら×だった。「科学的には証明されていない」そうである。優勝は所長さんチーム。一同、納得した次第。

（明治大学農学部食料環境政策学科専任教授）

## 防風林

地方には他集落や遠方に娘が嫁入りする際、その家に伝わる地野菜の種を行李に忍ばせる風習があるという。その種が実を結び、主婦として家族を支える備えにしてほしいとの親の願い。この種は地野菜として根付き伝承される▼「備えの種をまこう。」は、今年70周年を迎える農業災害補償制度のキャッチフレーズ。経営安定を脅かす方が一の障害に対して、「備え」の意識をさらに強固に広める…との決意を種に込めた。備えの種は、大地にしっかり根を張る大樹に育てたい。しかも咲く花の色が異なる2本の主枝をもつ▼改正農業災害補償法が国会で成立した。幅広い品目に対応し価格低下などを含めた収入減少を補てんする収入保険制度の導入と、自然災害による経済的損失を補てんする農業共済の両輪で、農家のセーフティーネットを構築することになる▼農家がどの花の色を選ぶかは、経営に合った自主的な選択にゆだねられる。とかく選択には、安易で安価な方に流れやすく、「無保険状態の農家がでなければいいが」と国会審議でも憂慮する多くの声が上がった。自動車の所有者が自賠責保険と任意保険に加入するように、変化する自然や価格を相手の農業では、備えがなければ浮き苗の経営だ▼農業経営に対する多様な考え方があっていい。「無からの災害再起は本当に難しかった」と、被災農家はみな振り返る――万が一を想定した「備えの種」の自己選択は、危機管理の鉄則といえる。

今週のおすすめ記事
改正農災法 参院農水委の参考人質疑…2面・総合
復帰支援 若者の背中押す農園に…3面・暮らし
地域資源を活用した6次産業化…8面・流通

過去の記事も読めます
農業共済新聞の過去記事は、インターネットの有料サイト「G-Search」や「日経テレコン」で検索・閲覧できます。
農業共済新聞ホームページ（右がQRコード）と併せて活用ください。

Zizlizer ジズライザー®
地面を滑らせ楽々草刈り

KITAMURA
株式会社 北村製作所
http://www.kitamura-ss.com